

~ 13
3096
2



門 13
3096
巻 2

夢想兵衛胡蝶物語卷之二

東都

曲亭馬琴戲編

色慾國上品

慾色をとりて大うとと。國君あまかたふ。爵位を捧げしめり。隣國に削られ。息子がまが為に牙上を粉よると死に。親族も挽きとて。或は千両の角屋敷に一夜の飲樂。小踏潰せどもを一生ど。或は五十年の姓命と。二十一期は情死と。まごも恨と。さへ生大慾は。慾は近き患ひあるも。遠き慮の死なむべし。さへ志生そ。活りぬ。いづきを好む。妻恋ふ。廉ハ笛よあり。燒野の維声小あへま。蔽衣の縫目も。隠る風も。北と負て花見よ。出うけ。借家の屋根よつなむ。猫も。友と挑む。月夜も呻り。北狗と追ふ。白黒ハ乱まて

昭和九年
七月二十四日
購求

水とくけりく火厭ひと燈燭より夏虫と惑溺して火よ入るるを
 怖まど。鬼の女房は鬼神あり。割洞は洞蓋あり。矮雞の内儀の大不
 器量。蚤虫の嗅衆のふさちちち。廢下ぬも色あつたこと。鰓の貝の斤
 比目魚の大湿う。鯨河豚の悪女で鮓の味。阿漕が浦はひく鯛也。鯉
 を積りて濃汁は。喜ぶるひとあつめり。有情の殊は非情也。高砂の
 松夫婦と現は。化野の海ほの字と招くも。末の尾花の九十九髪浮世の果
 小町也。悟て見よ。即色是空。うがふとく大食とれば。竟は脾胃虚
 の患ひあり。睦とて荒淫なれば。可惜女房を若後家はて。比翼も像見
 の紋とまよは迷り。連理の枝も頭又よつらとて。美人の骸骨。あまは甲斐
 あり。他の弓の彎べうぐ。他の馬の騎べうぐ。他の惚鼻で相撲とまよふ。
 他の家も。小指でもささると。國禁法度嚴るるも。禁下が死はる道ある

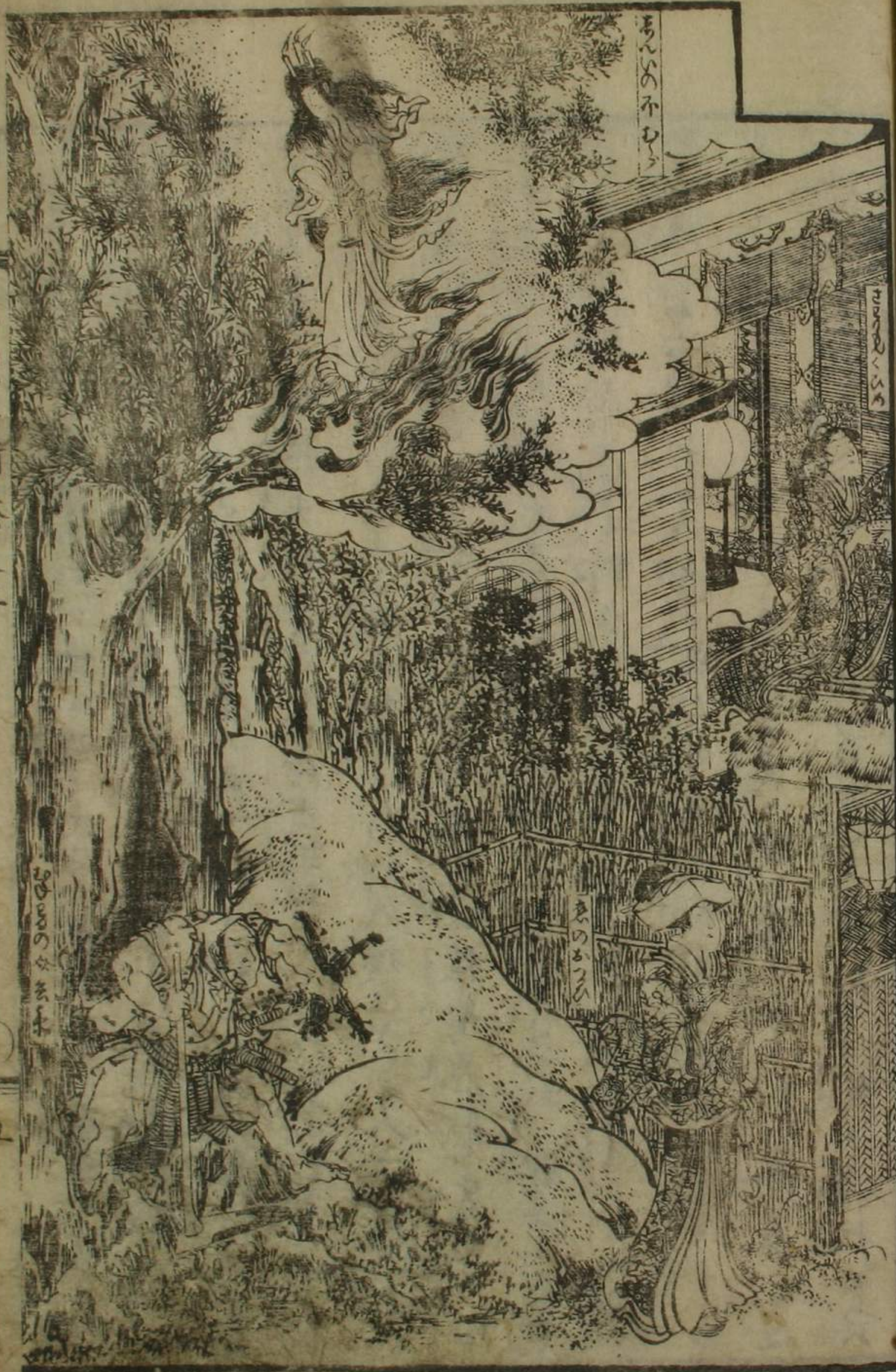
よ。そのを慾と落ううう。のうう。國やあやんと。妄想魚傷の紙式鳥の
 上り。下界と遙は直下。日。その國國は廣大。上品中品下品とまよれ
 べて。男女の十五六。二十五の曉と一期と。男のやう衣紋と。婦人の
 ころ。小尻と拊日。髪日。化粧日。焼餅。いご。その結を。勿論一本の伽羅の油の
 一度よつら。足と。半日の洗湯。ハ。梳と。う。迎ひと。け。男も。裙と。踵と
 う。せ。綿の落く。入と。く。の。網の。ど。帯の。廣。して。海老。鯛。は。似。ま。り。
 され。上品。領。は。住。む。人。の。家。隸。着。属。駁。あり。て。男。の。束。茅。あ。ま。り。由。あり。水
 干。よ。立。鳥。子。ゆ。め。り。看。る。が。小。刀。は。よ。る。ゆ。め。り。女。の。五。衣。は。律。乃。袴。
 或。ハ。襠。は。下。髪。ゆ。め。り。振。袖。の。括。り。目。は。厚。巻。さ。げ。て。五。月。の。茶。玉。ん。ね
 かり。よ。ひ。つ。つ。せ。兩。天。の。花。挿。頭。ハ。頭。お。ゆ。さ。う。は。是。り。嬉。し。の。と。い。つ。て。ん
 歌。と。よ。も。悲。し。の。と。い。つ。て。ん。身。を。録。も。る。ん。ど。の。と。い。つ。て。ん。文。句。と。い。つ。て。ん

少えずせぬ。さうさうでう。年と怨ぢれば疑ひをもして。ゆるくとて中と忽
 よのろくろ。應嬉しの中なる。萬るす手ねる。風俗も。ちろとじと
 艶筒も。蒔繪ちびの文箱。萌ゆる。長紐を。とて。信びまげ。白練の
 帽子。總模様の中。年。懐。草。の。す。は。晒。の。足。袋。塗。骨。の。扇。半。啓。いて。
 胸の。あ。う。と。あ。ふ。が。な。が。ら。も。あ。ら。う。と。あ。む。跡。う。供。い。ち。定。り。の。高。蒲。皮。よ
 紺の。着。板。ま。を。折。ぐ。某。甲。さ。ぬ。ふ。あ。め。ま。が。ら。う。の。ち。あ。と。捨。せ。り。い。の
 間。ど。と。ま。ま。て。哀。の。使。主。と。え。ま。ね。又。取。次。の。青。侍。と。こ。の。も。こ。け。の。の。り。と。う。を
 目。つ。れ。あ。り。凡。ふ。地。の。大。將。ハ。結。髪。の。真。方。と。嫌。て。傾。城。よ。を。ま。り。こ。も。智。仁。勇
 の。三。德。ハ。悉。缺。れ。ど。め。ら。し。む。さ。う。は。男。ぶ。ら。う。よ。何。不。足。の。身。と。り。つ。て。あ。う。け
 の。金。よ。手。支。ま。ま。へ。佞。人。時。と。詔。と。家。の。宝。物。と。質。よ。お。む。せ。胸。の。う。ら。う。さ。る。老。女
 と。お。紙。あ。り。と。國。家。と。押。領。見。と。計。較。む。その。奸。計。ハ。と。ま。ま。の。は。れ。と。よ。の。り。も

ち。さ。う。女。子。ハ。目。か。る。く。物。俸。も。く。由。主。君。の。奥。方。よ。お。紙。う。け。戎。ハ。若。殿。の。鼻。に
 毛。延。く。と。さ。り。ま。も。傾。城。と。と。さ。う。せん。じ。戎。ハ。黒。上。上。吉。の。腰。え。と。こ。う。く
 む。ら。う。と。れ。と。れ。と。相。終。の。お。と。と。う。と。こ。の。色。情。と。上。品。領。で。い。て。ん。場。と。い。ひ。中
 品。領。と。い。お。ん。婆。と。い。ふ。さ。ま。ら。う。て。中。宿。を。の。り。の。や。や。ま。く。紙。雛。の。欠。さ。る
 と。さ。う。小。將。衣。烏。帽子。の。ま。も。十二。重。の。上。臍。を。脊。ご。う。負。て。赤。く。あ。り。
 その。と。れ。追。人。の。兵。と。お。侍。く。腹。巻。よ。小。手。髑。當。て。松。明。と。さ。り。つ。と。あ。れ
 迹。と。ま。と。呼。び。け。く。落。尾。花。を。踏。ま。げ。れ。と。や。近。づ。と。え。く。う。て。さ。う。あ。り
 何。ぞ。と。人。の。同。ひ。し。と。れ。と。瀬。戸。物。町。の。寒。晒。り。野。さ。じ。よ。ら。う。て。業。さ。ら。へ。迹。え。ん。か
 と。さ。う。も。あ。る。す。い。ふ。け。う。う。と。ま。ん。と。く。捕。ら。う。も。あ。り。戎。ハ。野。平。隠。へ。迹。え。ん。か
 ら。異。見。でも。さ。う。ぬ。を。と。焼。殺。さ。ふ。と。威。さ。ま。と。む。さ。う。野。ハ。な。ら。う。あ。れ。若
 草。の。つ。ま。ゆ。ら。れ。り。と。ま。ま。の。は。れ。と。よ。の。り。と。さ。う。口。平。隠。が。け。よ。む。さ。う。か。と。い

福をいれど尻がむくの隠し課をい。是より末のまげぬ恋する。或は名聞
 と好む才飛女。うねてより。あひするより。柴のころむるもの。うげれせん
 との。と福をい。このまう人よ。やせや。格別の余情あり。化す男と化す女
 て。捨てるも。後よこそ。と浮気する男よ。とえ膳しく。たろと浮名のうら
 愛想づ。とるぶ。さうくされて。まうと。で。あひの歌を。その夫
 へ。おつて名譽を。そのもの。さう。一首の歌。ゆえ。ま。生涯を。痴のま。さ
 と。い。一夜。の。君と。さう。一心。命と。花。男と。同日の。後。この
 上品。領。生。女。顔。色。世。揚。色。各。気。嫉。妬。由。世。揚。ま。これ。口
 様。く。い。ひ。も。出。さ。日。は。三。度。夜。は。三。度。瞋。恚。の。燭。を。燃。と。天。狗。道。乃
 苦。ま。ま。い。や。す。て。本。妻。と。壁。妻。の。頭。髻。か。假。寐。し。隙。は。蛇。と。る。れ。ば。
 夫。も。あ。れ。ま。久。ろ。と。怖。ま。の。景。迹。は。氣。を。天。ま。下。の。口。高。野。へ。登。り。

一生。行。ひ。ま。ま。あり。才。色。両。全。の。姐。己。う。家。が。乱。ま。忠。臣。の。練。言。半。城
 ち。も。聽。入。ま。怒。の。そ。杖。半。う。と。ま。の。見。え。と。ま。う。練。あ。る。ぬ。家
 臣。の。や。ま。箕。四。郎。の。奴。と。ま。比。干。兵。衛。の。胸。を。裂。ま。その。國。に。ひ。て。忠。臣。の。名。を
 ま。し。も。迹。の。祭。り。神。も。佛。も。え。う。う。り。昔。の。似。ぬ。放。馬。駒。妻。の。女。房
 の。美。と。ま。ま。女。房。の。妻。の。あ。ら。ま。ま。知。代。あ。ま。ぬ。中。ま。ま。互。ひ。は。坊。と。乃
 角。つ。れ。あ。ひ。所。と。悪。人。つ。け。ら。ん。科。も。ま。蒙。人。形。は。四。十。八。本。の。行。と。打。つ。け。庭
 の。松。蔭。へ。埋。ま。ま。ま。支。役。あり。是。の。ゆ。ゆ。と。一。と。菓。自。身。の。馬。を
 の。あ。り。出。し。て。ま。ま。天。窓。と。暈。燭。を。は。丑。の。時。ま。わ。り。と。出。け。ま。ハ。乃
 鐘。こ。う。く。と。鳴。ま。ま。樹。の。梢。と。風。の。さ。く。と。青。ま。ま。又。あ。げ。ま。ま。ぬ
 高。足。駄。自。装。束。は。髪。あり。乱。ま。ま。支。度。う。甚。手。あり。現。て。入。り
 入。り。ま。ま。と。ま。ま。社。内。は。歩。ま。ま。夏。向。自。氏。買。ま。ま。あ。ま



とろろ太め火と神木の杉の樹と握てんとうささうさう。傘よさうさう。杖
こそ因果生身へまへの用捨る。五寸釘とらうさなれ。葉と切り。芽と睜り。
おろと幸防とらうつら。秦の始皇ハ雨やけし。松よ太夫の爵とこれま。
こま又あまう。胸慾夫杉の字とと死と判ひ。と死ハ直みてまうすふ。
生と樹るればと死とつよよ。曲とどぐらう釘の預ひがさうふやうはえ来
神ハ非礼と受む人と呪つ。完ふらあ。女の猿智恵。瞽家の一公。
よや悪神ガ荷贍して。志は奇特ハ足やとも。めでくハ一期とらえむ。
さてもく人間をど。さう別なりのあつ。と草本よまや。垂準ま。二年
の古残かめづらしてその身よ報ひ。未永永切刀林地獄へ墮て苦む
りのもあり。わら團あもすれくま蓬よ交る麻のどく。妬まぬのあまて夜
拵びよのさすよと花へ。わら夫よ顔つ死せむ。さうおらう拵せと。羽折とさ

と後く。夏せくさ。と小服指。草履る母さぬむらりよ。されハ疵
ゆり足下合点ゆげ。世よ版と死を兼草の妻ハあまど。焼餅やうぬ
女房のう。ぬらうとじておとや。あまらう鴨河の水り。はと樂む
間夫が。うらうらうぬ。さうであろ。さやあまのあまのあまぬ。とぬハ熊を
まろ小のけ。植根の隙く。窺へハ出あ。さうさうらうらめ。新瑞よ近く
まろ月よ。さう影をの。かあて物さみ。げよ琴引。さう風あう。おさう
まろ彼。立田山。夜あまや。君か。ひとりやく。とまのさ。さうさうさう
あられど。かうの妻を居物みて。ひとり物をあまの。ハ男冥利よつれ
さう。嗚呼。さう。誤らう。と後悔して。切戸を開れて走り入り。堪忍
とてよ。さう妻と。勸解てそれ。と夜あまびせむ。さうめあも。あまの思愛ハ
彼ら。柴の生才。智あ。似て。も似つ。と歌。由亦。実情。さう。出。進。ハ。功能。あり。

西田の天野宗三

又その鄰は何かと。これ由同じく後者ありて。操りて容るる。ヤブも
 本妻が。鼻よつくとて妻づひ壁を隔て彼増花と。明も暮るも離
 る。出てもけが。本妻を強顔と。恨もせむ。鄰坐敷乃
 睦言を。笑てある幸防つ。折し由秋の長き夜は風がりてある。床の
 声。西よあつて。ついで。本妻の。咳も。憎く夫
 へ妻の名を呼て。西の秋も。妻よ象る。床もつまらぬ。声。ついで
 羨し。あひあやの。本妻の。いふ。これ由。あつて。人
 小恋ら。今こそ外よ。声。口吟。夫の。忽地感。堪
 かく。で。我の。妻。ついで。天魔の。所為。あり。んとて
 忽地備室を。追ひ。本よ。昔よ。の。睦
 く。夫婦。共。向。髪。よ。あつて。景。迹。よ。あつて。大

息。吻。れ。固。よ。女。の。妬。忌。る。れ。一。百。の。拙。を。代。掩。ふ。と。い。り。人。の。性。の。さ。る。る。も。怒
 小。引。て。悪。と。あ。れ。ど。物。は。觸。ま。る。感。激。を。え。の。言。は。し。る。と。有。太
 鼓。の。撥。の。あ。つ。が。百。里。の。難。と。ま。る。船。も。一。家。の。内。を。ま。つ。る。妻。も。只。楫
 の。さ。り。や。う。む。り。船。を。海。も。水。船。を。覆。も。水。あ。ふ。新。と。河。の。柵。の
 枝。よ。雪。お。り。は。あ。れ。ば。貞。女。の。家。の。室。美。妻。の。身。を。殺。斃。し。ひ。り。夫。婦。の
 人。の。大。倫。あ。つ。て。天。子。講。度。も。あ。つ。る。妻。も。卷。耳。の。固。り。右。妃。の。徳。関
 睡。へ。楽。ん。で。淫。せ。む。と。い。り。只。後。る。れ。が。不。考。る。と。七。去。の。罪。も。子。も。此
 へ。去。る。子。も。と。い。り。も。賢。あ。つ。て。又。母。は。順。る。妻。は。去。り。と。是。は。換。る。妻
 と。り。て。と。妻。を。娶。る。も。妻。を。養。も。枕。の。塵。を。拂。し。て。房。は。快。楽。を。も。為
 あ。の。あ。つ。て。子。種。を。あ。つ。て。田。地。あ。つ。て。入。他。も。ぬ。物。も。ぬ。地。面。を。ひろく
 り。ら。つ。て。益。る。も。あ。つ。て。瓜。の。習。俗。も。て。標。致。が。う。て。賢。く。て。子。の。あ。れ

妻が鼻よつくとく。女護の婿と女子をあつめ。彈き。嘆せり。殊せ
 たり。ふとせり。不養生けり。暮りて命を擡減さるる。只一本の鯉節
 速く。脾腎共は虚して。美人共は仇とる。廿五の曉を一期とく。
 十萬億土へ旅とる。此の義女也。道つぎある。妻子珍宝も。禪へ
 結び。若くはりて。あまふ。福の鄰家あり。禍あり。樂の地尻に哀まらり。
 死生命ありとく。不養生とま。命を待て。妻の死生もこれ
 あり。あまふ。病ひと惹出。病が重なる。茶三昧。こまなる。ぬあま
 由り。禁好物の妻の幸防ひる。此も。ハ大なる。あり。まて。
 醫者よ。わく。毒とあま。こま。とま。さる。る。醫者の病
 を愈さる。毒断。さる。ハ。雅か。り。鬼の毛で突。行。も。か
 月と可愛とる。醫者か。訓。毒断の。あり。あま。さる。る。り。の。

巳少く。醫者よ。わく。毒断を破る。ハ。か。身。を。他人。も。他人。も。か
 牙は。耳と寒。鈴と盗。む。や。り。の。茶。の。飲。む。の。甘。の。辛。の。胸。
 ころくる。の。と。の。眉。と。口。と。含。め。元。日。の。茶。濁。と。出。と。五。節。の。少。
 休業して。灸。治。の。曆。先。へ。年。日。の。血。心。の。と。外。の。日。の。
 氣。海。天。樞。と。え。寅。の。日。の。七。九。を。や。て。免。腹。龍。股。帛。背。の。画。を
 かく。人。の。い。ま。と。さ。る。ふ。灸。治。よ。已。心。を。た。は。る。ち。ち。の。良。茶。の。口。は。苦。い。の
 病を愈。直言。の。氣。よ。あ。る。り。の。あ。ま。月。の。み。よ。る。の。友。と。ば。療
 治。日。を。擇。む。惑。ひ。の。あ。じ。年。日。と。い。ひ。毎。年。の。月。の。か。生。ま。る。日。は。當
 る。と。被。生。日。も。又。畧。して。年。日。の。い。あ。る。る。を。子。の。年。は。生。ま。る。子
 の。日。を。思。ひ。年。と。月。を。勘。定。入。ま。ぬ。算。盤。ち。び。あ。て。と。え。と。も。る。ま。の。子。茶
 擡。ゆ。や。療。治。日。を。擇。む。病。の。發。さ。る。日。と。擇。む。元。日。も。年。日

かも。頓病頓死とんびやうとんし。人々ハ居ゐ。まじ。あつて日ひと擇えらむ。医いとえ。時ときと忌いむ。毒どくを已いむ。病やまハの発おこぬ。死しよ。由よ。艱かんけの灸しう治ちる。ば。目めも時ときも由よる。糾あ致しる。天てんも晴はる。日ひも艾あとえ。火ひを清きよく。關かん亦またのちがぬ。やう。又またおろさ。その日ひハ酒さけ飲のみぶ。兩りやう三さん日にちハ浴よくす。七日しちにちハ同房どうぼうす。慎しんむ。艱かん生せいする。之これけ。牙がも由よ。應おうぜぬ。死し。く。あ。塩しほぞら。火ひの物もの断たる。灸しう真ま酒しゆも。美みる。端たん婦ふは四よ花はなをえ。され。背せハ眼めのる。い。不足ふそく。ひ。め。羨うらやむ。灸しう治ちせぬ。あ。ち。ろ。小こ方かたも。夫つま淫いん樂らくハ悪あく。る。艱かん生せいハ。悪あく。進すすむ。ゆ。又また日ひと擇えらむ。其その急いそ甚し。く。や。又また七しち八はち十じゆする。耶や彼かが。牽けん午ご花けの種たねと乾かわて。死し亦また亦また。年ねんも蔭かげす。の。ま。とい。を。く。め。の。か。吟ぎん。ひ。を。桶たけ。腰こしく。け。年ねんも不足ふそく。る。い。人ひとの。聖せいの。

命いのちも。又また。年ねんの。秋あき。を。ま。つ。る。思おもむ。簡かん也や。ま。じ。ま。む。の。め。ら。ら。い。か。の。み。の。中なかつ。と。て。死し。ま。の。い。の。ま。じ。老ろう少せう不ふ定てい。か。世よの。る。ひ。の。ま。じ。と。生なま。ま。ま。と。出で。る。の。遅おそ。い。死し。ゆ。る。ま。じ。その。臨りん終しゆう。ま。ま。や。聖せい。年ねん。五ご十じゆ年ねん。六ろく十じゆ年ねん。後のちの。ま。ま。志し。ぬ。で。ま。ま。怒いか。哀あ。樂らく。ま。ま。の。命いのち。か。志し。ぬ。ま。ま。辛から。を。又また。住す。居ゐ。る。一いつ。日にち。由よ。ま。ま。死し。ま。の。命いのち。と。志し。る。も。聖せい。の。ま。ま。年ねん。の。ま。孫まご子こ。の。代しろ。の。ま。ま。由よ。ま。ま。死し。ま。の。命いのち。と。志し。る。も。一いつ。足あし。も。後のち。ま。ま。の。ま。ま。の。目め。急いそ。用もち。る。ま。ま。朝あさ。又また。道みち。を。ま。ま。死し。ま。の。ま。ま。死し。ま。の。ま。ま。聖せい。人ひと。の。宣のたま。へ。ま。ま。禹う。か。七しち。年ねん。の。河か。後のち。三さん。度た。ま。ま。門かど。と。素す。ぞ。り。ま。ま。志し。ぬ。ま。ま。功こう。は。達たつ。ま。ま。め。ま。ま。千せん。万まん。年ねん。の。後のち。ま。ま。民たみ。や。と。り。れ。と。死し。ま。の。ま。ま。の。德とく。今いま。衰おとろ。へ。ま。ま。禁かぎ。封ふう。の。後のち。の。ま。ま。死し。ま。の。ま。ま。當あた。坐ま。ま。の。死し。の。ま。ま。普ふ。請しん。酒さけ。池いけ。内うち。林りん。の。ま。ま。切き。足あし。せ。ま。ま。の。ま。ま。

ふらり見えまは。色衰や鳩盤茶の如し。孰も鳩盤茶を畏まごもと舌
とあるも。道理至極外面如菩薩内心如夜叉と云まつも衆人の踏
ちよふ由色の道。たそふ易の意の測畢竟。男の悪性。女の好し。かれ
つまる食。易か女の水性。易くも被る。小夜衣。うの中。低の鼻や頬
の好。注文。入の美。同。うの只。かを擇ま。後の患。うせん。縦十枚の
挿盆。とり。うも。一人。二の味噌。ハ。撮。ま。十條の毛。滄。あ。れば。と。
二。本。一度。あ。つ。ふ。ま。二。の。揚。ふ。ハ。着。を。着。む。酒。盃。あ。ハ。蓋。を。せ。ま。と。盈。ま。ど。
虧。と。時。た。ぶ。る。色。慾。國。と。そ。う。そ。と。と。愛。想。兵。衛。ハ。紙。鳥。の。う。く。肩
と。う。に。肘。を。張。り。う。の。あ。せ。う。ろ。小。言。の。折。る。苗。奇。南。の。匂。ひ。後。と。蘆。
忽。地。け。ろ。の。下。界。は。當。て。ぞ。と。笑。ふ。女。の。声。二。三。十。人。む。り。あ。や。と。夢。の。ま。は。
と。何。ろ。ぞ。と。不。審。さ。よ。う。う。ま。つ。く。直。下。せ。今。ま。で。え。る。疑。造。り。あ。ら。十

増倍の奇麗壯観。金張付の大坐敷。掛。したる翠簾。を捲あけ。
臍塗の高棚。總減金。高麗。縁の青席。薫。風。る春の海。のど。く。狭子
張の腰障子の。晴。る夏。の山。は。似。う。瑪瑙。の。打。り。水晶。の。盆。石。襪。の
戸。張。綾。の。几。帳。美。と。そ。そ。そ。と。い。ま。つ。り。切。て。る。館。の。あ。ら。と。お。お。い。く。
淫酒兼依の若武者一騎。さ。う。の。ま。桂。の。肌。脱。ぎ。さ。う。う。花。軍。の
近。引。を。調。練。し。二。三。十。人。の。美。女。を。あ。つ。め。お。の。く。羅。衣。一。つ。そ。せ。西。を。東
へと追ま。り。ま。く。な。打。ま。と。ぬ。る。不。ご。裳。踏。之。へ。皓。脰。の。か。ま。は。
噓。る。む。ら。の。の。空。柱。の。蘭。奢。ら。ん。ら。餘。念。る。い。何。ど。け。の。り。孺。子。の。芋。
引。ま。つ。く。ご。ら。り。ご。ら。る。も。あり。孫。子。か。女。兵。大。原。の。粥。杖。は。異。る。く。バ。れ。る。貴。
妃。や。小。町。や。玉。子。の。丸。は。は。硝。子。を。倒。す。つ。ら。玉。簾。へ。隔。ち。と。死。は。月。を
欺。地。翠。十。の。黒。髪。桺。の。腰。元。直。ま。建。つ。屏。風。を。撞。と。と。と。花。は。似。う。



古今圖書集成

解酒の巻

あし



夢想兵庫巻之二

のり

十一

定は人間の飲食を極り。慾鬼の仙宮の外はあじ。と忽地我を朽
 ちるめどく。今や心小言い。愛老兵衛也。さう凡夫の浅才
 徒と流し。眼とやそ。鼻息あつくつらう。えさう。えをそれ。佐本
 欺く梶原の馬の鞍はあねども。おの鼻毛とりらとも。紙鳶の糸目
 の近。彼若武者の血気はうて。奮怒突敵時。サアとい組んと
 大丰とひろげ。二八むりの美婦人が襟上柱んで。うと身と後人
 と前へいく。互に曳やと。うらう。浅黄瀬嶺の襟ひれ。離て。左右へ
 さら真仰向。うやう。ぬと愛老兵衛へ。紙鳶へ。ひろ。うと。うと。
 小張の糸。うと。忽然と片肩降り。啞の雷。うと。うと。案内あり。うと
 と下段へ落し。腰の骨と。うと。うと。打。うと。うと。うと。うと。うと。
 境と。うと。うと。定業場。うと。うと。三月の杜鵑。若葉は。うと。うと。

あて。ひとり。息吹く。あうと。え。ば。ひの外。夏人の中へ。落。うと。
 草花。小松原。身を。うと。居。うと。橋。海。帆
 柱。彷彿。流。うと。鳥屋。著。鞍馬。天狗。羽衣。再
 して。天人。うと。今。の。身。の。紙。鳶。の。飛。うと。うと。杖
 小。不。感。都。驚。と。追。ひ。失。うと。林。和。靖。也。うと。うと。うと。
 後悔。の。詮。注。うと。うと。久。保。の。仙。人。が。布。と。晒。うと。女。の。脛。の。白。れ。うと。
 人。惚。ま。て。忽。地。うと。通。と。失。ひ。うと。大。俗。凡。夫。は。方。うと。向。物。うと。と。目。録。冷
 笑。と。か。面。目。うと。人。うと。本。の。うと。竹。の。お。ま。の。うと。朝。寛。上。人。也。
 牙。の。うと。寺。の。うと。京。極。の。御。息。所。は。寛。く。玉。の。緒。と。珠。数。を。うと。
 三。諸。の。山。は。迹。垂。うと。ひ。大。物。主。の。大。神。也。の。茅。環。うと。久。うと。後。迹
 迹。日。百。龍。衣。姫。命。は。匙。と。投。うと。ひ。例。也。あり。口。を。調。宝。うと。物。うと。人

の縁に火説く。釋迦あり。孔子も勝し。まらふ。立流よりのけられど。
あふふそつて炬燵兵装。ちりつづつでもゆくぬると。思案外とよあふ。
少年國よりくく渡るや。小言ひ結ぶ。報ひあふ。夏目をわくも。
と飲と死放。後よ舎る尻の。こが身の臭さ。紙をぬく。野中で
化ささ。扱他ふ。やや狐の。さるさ。只きさうく。とさ。ま。日ハ
暮かる。肚餓くるる。宿を備ふ。あ。人気の。物食ふ。あ。糧ハ。紙
紙。さの。く。又。さ。と。れハ。肚。ゆる。は。む。も。お。が。え。ど。つ。つ。も
正月。や。と。び。ひ。さ。や。三保の門。松天人の。立。衰。と。ま。身。よ。あ。る。り。の。と。ま。
四。睡。も。む。り。山。水。あ。ら。く。更。よ。さ。ま。ら。ぶ。里。を。る。へ。く。松。原。と。出。る。あ。る。れ。ハ
入。紅。あり。日。本。で。つ。り。あ。る。ふ。天。の。橋。ま。と。も。名。づ。く。だ。気。色。あ。く。緑。波。岸
と。洗。入。て。鶴。と。驚。く。向。雲。水。映。れ。松。倒。ま。り。向。上。は。明。月。海

より昇り。直下せば。漁舟巖に歇り。潮風は戦く。芦の穂ハ。れと招く
と疑と夕霧よ。つら。遠山ハ。造化の墨繪を。見まか。つ。つ。佳。境。
小世と避る。只一軒の柴の戸あり。り。須磨の配所。あ。ら。る。海神の
別荘。ある。と。後。む。兵。衛。ハ。公。飲。び。お。の。づ。う。も。是。由。と。あ。ハ。立。地。
走。り。つ。れ。生。垣。の。片。折。戸。を。推。と。敲。ど。開。び。を。つ。つ。よ。の。巻。よ。り。の。チ。え。
これハ。あ。ら。る。天。竺。浪。人。紙。を。ふ。ま。ら。し。難。儀。至。極。一。夜。の。宿。り。を
貸。て。と。古。風。な。き。み。で。呼。門。と。も。軒。の。熟。柿。の。点。改。む。ら。う。ら。ん。ど。と。も
漬。と。と。も。一。言。の。返。答。あ。け。は。ら。る。さ。い。く。ま。ら。う。と。り。明。店。を
る。る。と。と。と。垣。の。破。ま。ら。う。と。り。眠。け。ハ。熱。田。へ。る。か。れ。き。揚。貴。妃。ハ。嚴。嶋
の。舟。財。天。牧。と。さ。ら。る。女。又。琴。を。弾。し。て。お。り。疾。む。さ。さ。ふ。人。の。由。も
あ。ら。る。と。あ。て。樂。と。ら。る。か。物。舟。の。姑。と。亭。主。ハ。定。め。く。玄。宗。帝。飲

但一平清盛欽。り男がごとくとらて。年ころあふ。在吾中将。光源氏
 ももをくからぬ。上あろめであく。六構ど。ごらむぬ。之面か見え。
 とこれと忘ま。く。む。言。積設の刺で額や項で。搔中。ごらむぬ。之面か見え。
 ぞうや。わ。や。や。垣の破。き。め。首。ま。く。と。ま。は。く。ぐ。と。ん。ま。ば。ら。の。ま。亭
 主。は。ま。る。び。と。白。髪。阿。爺。こ。ま。の。ま。ら。や。と。二。度。び。つ。う。り。う。ま。色。欲。心。困
 ぬ。夫。婦。う。ま。と。小。腹。の。ま。ま。吐。け。か。弱。弱。八。表。を。信。と。ん。く。あ。り。不。審。や。今
 吾。妹。子。か。弾。琴。の。調。子。忽。地。濁。り。く。ハ。ウ。と。ん。又。一。下。必。案。案。と。れ
 正。卷。の。中。に。竊。は。窺。ふ。癖。者。あ。ん。誰。と。ん。く。糸。と。仰。は。従。ひ。勇。か
 禿。の。女。の。産。が。對。の。あり。袖。二。人。つ。ま。駒。下。駄。う。く。切。戸。を。開。く。爰。想
 兵。衛。か。袖。を。引。き。モ。モ。ん。ん。の。て。ん。を。ん。せ。ぬ。油。虫。と。い。ふ。の。ハ。あ。る。竈。り

生と。心。バ。生。垣。あ。ゆ。り。の。ま。ま。り。と。れ。る。ど。ん。く。ハ。内。へ。ま。つ。て。孔。雀
 と。ん。の。が。茶。を。あ。れ。サ。ア。を。ん。せ。と。引。ま。ま。と。爰。起。兵。衛。ハ。痛。と。い。ふ。も。
 首。を。ぬ。ふ。と。と。れ。バ。あ。り。悲。し。や。積。設。の。刺。で。め。り。く。あ。の。ま。た。と。ま。ま。は
 入。れ。バ。帯。の。結。び。目。を。く。く。く。く。痛。さ。苦。さ。な。ふ。と。あ。ら。の。垣
 と。り。ふ。ち。く。折。袂。法。ハ。る。い。欽。ま。づ。待。ま。と。賭。結。て。も。ま。ま。と。情。を。ま。ら。ぬ
 女。の。見。ども。弱。腰。丁。と。引。ま。ま。と。備。の。ぬ。る。と。一。且。を。ま。ん。お。り。由。霽。る。雨
 あ。り。ら。け。ら。お。び。つ。お。び。つ。膝。の。あ。り。又。蹴。揚。の。泥。の。反。つ。汚。ま。つ。起
 あ。ら。ん。只。少。女。あ。ま。く。と。脱。う。項。ハ。蚯蚓。腫。赦。免。一。偏。う。俊。寛。が
 壁。所。弘。ま。ま。と。女。の。童。の。迹。は。眼。を。緑。煙。は。跨。眠。ハ。主。の。玉。羽。葉。余。と
 う。ち。笑。ま。つ。ま。爰。起。兵。衛。を。誰。と。ん。く。あ。ん。と。や。ん。忘。ま。く。欽。と。云
 る。声。ハ。笑。ま。つ。ま。と。改。と。提。つ。ぐ。と。又。是。ハ。本。牧。の。船。の。中。で。假。寐

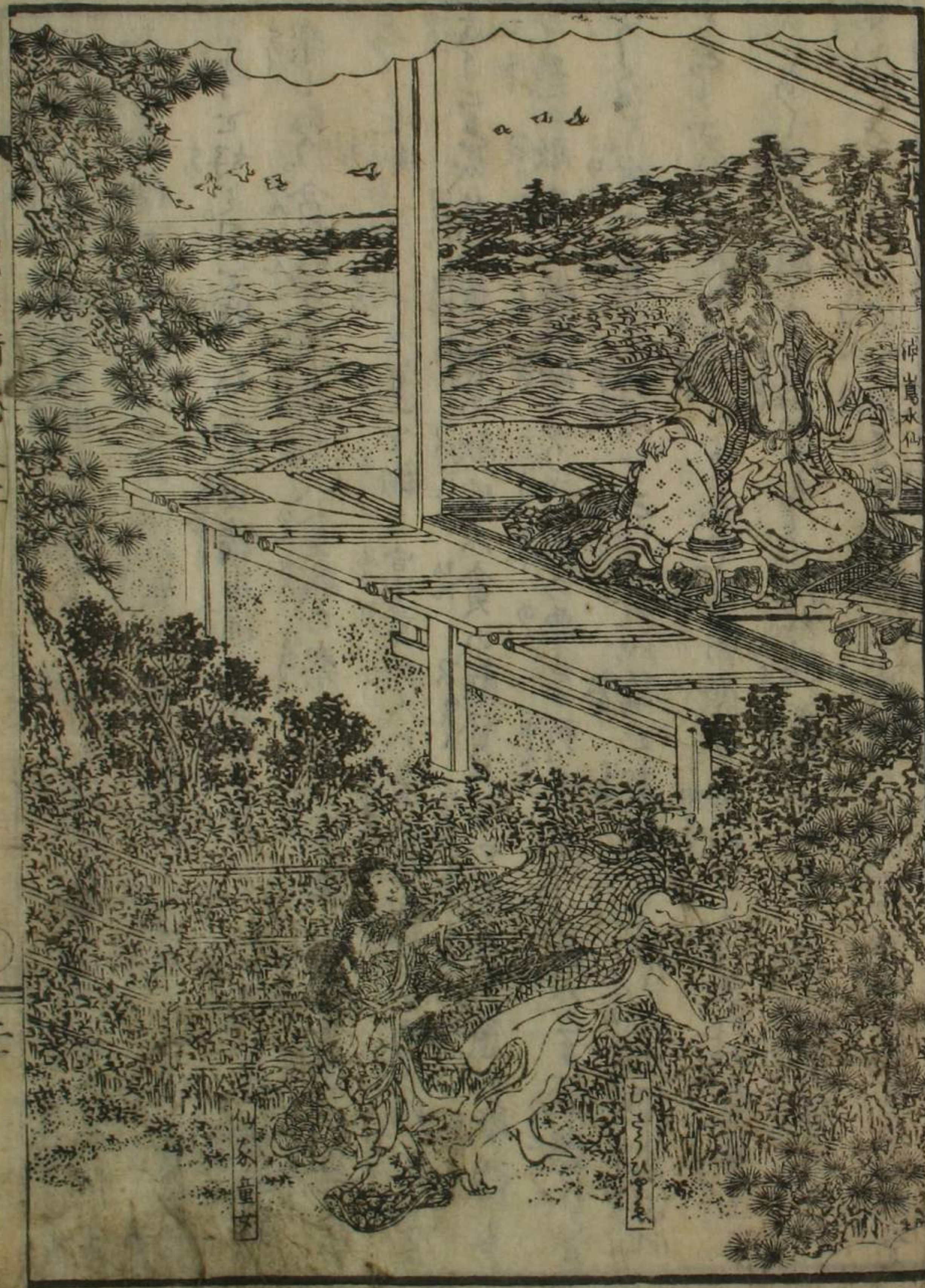
書と博く覧むは一生疑ひの解ぬものなり。おぬがせする伏学問の
 経史を誦ぶはて雑書を埒をわけ類書より技巧して動も故る
 と悟るものなり。さし小し學びたは又大に悟り。些たたり知るゆゑ
 ありし惑ふはあつたや。その俗眼にては物をみて嗚呼年々不足
 もるのよ。まづつてさるるよ。美女を左あし。琴瑟を右よするハ誘よハ
 年老の冷水身ふあてんで居るんとや。今これのころみのハ跣足で遊
 る。とらうよさげあんで居るであらふが。年よりと大病人の女子の収抱で
 るけまはゆれとや。や千万人の美女が眼前に元満ても。さうよま
 動ふねハ流る水よちうふか。告子ハよくそのを動かさど。孟子も亦四
 てを動かさどといふ。美女をえても。財宝をえても。幼少動さすの
 しか慾と拉ぎ恥とあると奴工夫と。さうとされハ不義の富とえて

由。これと羨して。その寵は媚使ひ。他の妻子をえくも。その美を飲ん
 袖褻と。いさ。才も徳もあつて。人の頭よまんと。奴隷ハ利を争ふて好
 破る。親族を射て。他人を愛し。貧賤を侮て。威勢は著。亦さるる
 けんや。他の妻よ私するもの。かり為損ト。牙の破滅とや。といふと
 ちとぶる。あつた。狐ハ狐ハ油氣を見て。隙あると奴睡り。魚ハ蚯蚓を
 えく。狗あると奴走る。慾を拉ぎ。工かあつた。あつた。さうと。さうハ
 ちもかりハせしむ。狗も吞まんと。か慾ハ倒して。危き奴と心や。明日
 ハ獸店の簷よつら。魚屋の組板よの得る。一時の利よまて。千載
 の名を汚し。六の慾を恣にして。百年の命を損と。さる。あは。君子の禍
 とする。あハ小人。さるを福と。君子の憎む。あハ小人。色を好む者
 ハ塗ぬ。あハ女子。さるも。さるが動く。ぬり。さるの顔と。さる。大

夢枕十傳卷之二

慈母を以て所^ゆ以^てハ物^の中^の二^を育^てる^る。ゆゑに日本^に生^まる^る人^は訓^じれども
 半^に介^し半^に彼^の言^をを^りけ^り異^に邦^に生^まる^る人^は訓^じれども馬^に無^き中^に坊^をあ^ける^る
 小^によ^りて富^貴の^家に^生る^る。ゆゑに物^のひ^びま^ま賤^しく^て貧^乏の^家に^生る^る
 け^のハ物^のひ^びま^まゆ^つと^賤し。氏^{より}育^習が^性と^るる^る。是^をバ^らま^ま訓^じる^る
 ゆ^ゝぬ^りの^とて孟^母と^いひ^く店^がえ^のと^いは^れる^る。そ^の子^とハ外^に出^るも^も
 己^の内^にで^抱ぐ^と成^{第一}と^いは^れる^る。近^所へ^出う^けて^も友^があ^いゆ^え
 お^かろ^うく^ら自^然と^内に^尻の^居る^と卵^養の^鳥の^如と^いは^れる^る。ゆ^ゝ
 手段^とあ^りる^る。押^入と^曲突^のお^れを^さう^とえ^まバ^僅三^を四^の席^に
 薦^を敷^きぬ^住居^る。又^その^孝行^{ある}子^とあ^りて^人に^よ
 哭^きれ^羨る^る。親^をか^か子^のの^まり^は大人^のの^級。又^案下^りて^り病^ひて^も
 出^せる^る。飲^酒命^をづ^のる^る。と^いは^れる^る。と^いは^れる^る。勿^論の^論

小^に浅^も遺^つて酒^飲む^との^と多^し朋^誼を^失ふ^る。ゆ^ゝに^外を^取ら^ぬ
 世^俗普^通の^親を^敬む^る。聖^賢の^女房^子と^も可^愛む^る。凡^人の^女房^子
 子^とも^可愛^むる^る。思^愛は^二つ^はる^る。凡^人の^愛は^濁る^る。又^愛は^依
 愛^をと^りて^濁る^る。あ^まを^とり^て身^をを^失ふ^る。ゆ^ゝに^智仁^は
 由^甚しく^終ん^とて^智仁^は濁^る。と^いは^れる^る。宋^の襄^公が^飲の^不意^をを^餐
 ぶ^て。駟^の兵^士と^夫ひ^る類^とま^るる^る。義^信由^甚しく^終ん^とて^義信^は濁^る
 と^いは^れる^る。尾^生が^女子^と約^束し^橋梁^を抱^着て^死す^る。類^とま^るる^る。夫^男
 子^ハ才^をり^てく^奉ぐ^と女子^ハ色^をり^て擇^む。と^いは^れる^る。才^{ある}もの^ハ好^美
 あり。美^るる^女ハ^うの^とむ^に淫^る。彼^レ利^{あり}と^いは^れる^る。害^{あり}。鸚^鵡は^うの^の
 以^ても^指を^離れ^て凡^人聖^賢の^口を^なれ^ども^患疾^を離^れど^とれ^を
 説^と極^めて^易く^とれ^をと^いは^れる^る。と^いは^れる^る。説^と極^めて^易く^とれ^をと^いは^れる^る。

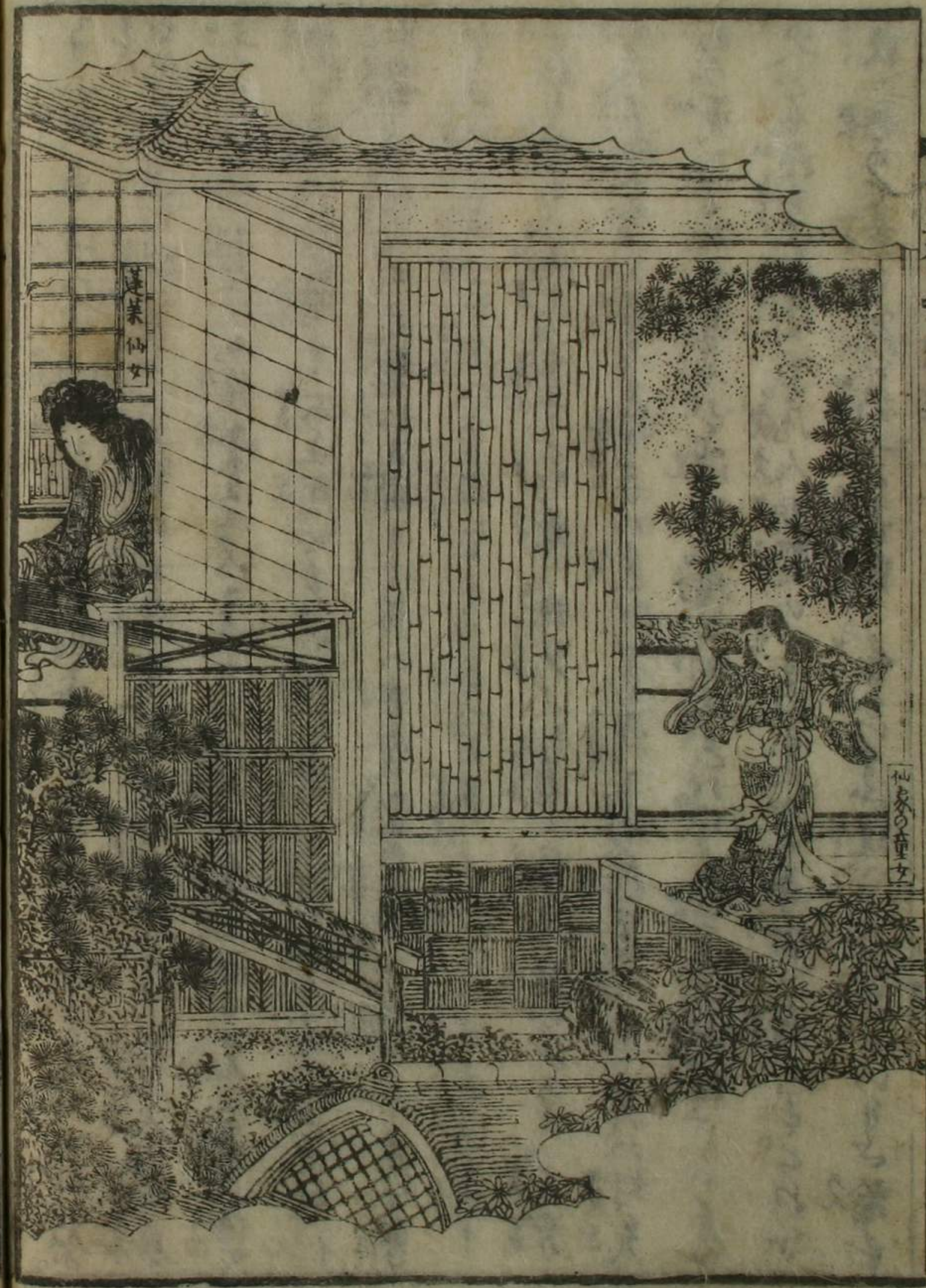


古
目
の
天
井
の
下
に
坐
す

仙居水位

止不動

止不動



古
目
の
天
井
の
下
に
坐
す

蓬莱仙女

仙居の童女

べくぐべ生死の言悪の成ととろ。その人死して後。たがめて藏者の衆評定
 る。其言ハ徳と畜人所以よりべ。聖人の黙してこれを知。凡人ハ耳を貴ぶな
 り。奇と好と月を賤しむ。友よ世情は通ぜど。富貴の人ハおのづから富貴乃
 樂とあり。貧賤するものも。又貧賤の樂とあり。貧賤の人富貴の樂とを
 志すと。知とざるをよと志と。識る富貴の人ハ貧賤の樂と志すと。知とざる
 友よ。其言ハ笑ふ言ハ惡の款。富ハ貧の款。賢ハ佞の款。智ハ愚の款。慈ハ
 怨の款。廉ハ辱の款。有る。設惡の愚ハ所以を志すと。げれば。志と識ると
 ようのく。貧の貧ハ所以を志すと。げれば。驕と者よ。多し。佞の佞ハ所以
 と志すと。げれば。志と退ると。愚の愚ハ所以を志すと。げれば。教導くよ
 うのく。慈の慈ハ所以を志すと。げれば。情と林あり。多し。厚の厚ハ
 所以を志すと。げれば。志とまよはば。切て異端ハその害と。責害多れと。

置く責と直記とあけてり。くくの曲とを措と。ねハ曲と。りハ曲と。りハ曲と。
 羞て直と著る。工ほ。あれども。けと。慙剛の。いれハ星ハ牽牛織女
 あり。まと夜這星あり。雲ハ周雲あり。神ハ山の神。ひよの神。かよ神あり。
 佛ハ大好仏あり。獸ハうちや。貂あり。猪ハちと。むく犬あり。鳥ハとけハあり。
 ぬと。ちと。むく。鴨あり。虫ハせんびつ虫あり。と。と。と。蛇あり。魚ハと。と。
 鯉。あハ。り。と。と。と。の。大。湿。鋸。魚。女。郎。貝。評。判。乃
 鮎。あり。本。又。連。理。あり。大。ハ。本。ハ。推。あり。草。ハ。比。翼。草。飯。ハ。好。草。あり
 一。國。三。郎。の。人。倫。禽。獸。草。木。ハ。至。る。ま。と。な。さ。慈。を。志。あり。おのく。淵。と
 國。風。ハ。不。教。嶋。ハ。異。あり。直。と。火。拳。人。ヤ。由。あり。い。れ。ハ。生。賢。人。顔
 と。か。お。ぬ。と。今。僅。ハ。二。三。十。人。の。義。女。を。と。立。地。ハ。ま。ろ。び。落。神。通。不。側
 の。糸。ハ。と。と。て。恋。の。奴。の。と。と。紙。を。と。り。ぬ。現。て。の。國。ハ。生。と。り。の。執。

そ欲の害と云ふ。死のいのちをとり。あれども色は濁る。情死と云
恨とせざるのあり。富人の慾を亦あはれども色を好む。富を捨て貪
を辞せざるものあり。人こそと見えば思ふると。その身はあつて賢
がど一。のなよ鹿を逐く。獠師の山をえび。そこその公鹿ありて。山
あり。さればあり。色とあひの。こまは同じ。男女相飲ぶが為よ。その害を云
ど。食ときと。天性あり。教されども。その害を云ふ。その害を云ふ。その害を
る。その害を云ふ。百年の夫婦のあり。一生つと。情人のほ。と云ハ
ふ。人の人々を。鬻骨と云ふ。艶曲と。風の耳より。と云ハ
る。ありて。慾國より。と云ハ。その界より。世よ貪泉を飲め。の
貪る。乞起るといふ。あれども。呉隠之。これと飲で。廉る。志と。の
ハ誰や。と云ハ。されば。亦一度の。と云ハ。功名。蓬萊

仙女が。色よ。三百四十七年の。春秋を。故郷は。親兄
弟ハ。いまでも。家もある。百里も。東を。西を。と云ハ。也
る。ありて。色慾の害ある。と云ハ。めて。情。形。煉。慾。断。仙人。ふ
る。ありて。疾。結。でも。紗。動。と。お。れ。也。賢。げ。は。理。屈。い。は。る。
か。身。と。つ。めて。人の。痛。は。ひ。や。ぬ。固。宰。領。世。は。大人。い。息子。や。娘。
が。世。間の。謔。言。り。の。よ。され。よ。も。三。四。十。は。及。ぐ。愚。は。あ。る。男。ハ。抱。女。抱。ひ。と。
親。よ。お。ど。と。父。代。と。分。散。し。女。房。子。ども。乞。食。は。女。ハ。父母。の。こ。
つ。け。て。と。され。と。律。義。で。嫁。ぐ。夫。を。捨。て。逃。く。れ。世。の。胡。慮。と。る。の。の。
あり。それ。の。た。め。賢。く。て。後。は。愚。は。る。と。でも。も。く。く。ら。ん。の。味。ひ。と。
ま。ぬ。ら。い。人。とも。笑。つ。が。不。図。と。さ。ら。ん。味。と。お。や。え。それ。は。甘。い

りの瓜。今ちを食するんぞのひん田別。人間僅五十年。こも式の樂も六
 せごとのでるものぞ。これくら許して。一度食ひ二度志くや。二度四度と
 度くするり。月の破滅するると死よ。ちめてるもの獲よやうよ狼狽
 ちつり。よもふるの瓜志くそのけと。後悔するん近うらむや。河豚の毒の
 あるもの。と吐おぼしき食ぬりのも。人の食ふをえまばあふ。由せど。これ祀
 高味のある魚を。えてわらうらと笑まき。やうて見やうとらとさうよ。一箸
 食てうらえゆりまじ。それうら河豚が好まらうて。さうやうやうやう。河豚
 今をさうと。彼らふよの味をさうざり人々。四十を越て浮気するり。
 身上を分散すると。おろぐよとて。人のまねのにて見識のるんこらうのうら
 ぶらうて由由断はるるべ。あればおぬがさる落も。さ慾國の味ひと。これまで
 ちぬぬあふ。さあうら女子嫌ひと。ゆりのさうさうくほ。この道理と悟らねば。

上品領の景迹を見て。腰うちぬらうさうなまをるん。中品下品をえするら
 ば。さも命いつくす。若中の苦を喫する人と。人のうの人の人といふ。こも
 と悟の道途みく。えさうつけすくよつけ。身を警め。人と警め。情を
 禁め。慾を控ぐら奴工夫と。捨紙鳥あま。助る風あり。中品下
 品のあ知らう。さる陸地るれば到り易し。強飲貪婪の二國へ。これ又
 船をりつて送らやうら凡の四の國を極て後。ちめて五十年の非を
 あらば。ゆらび不名残の祐ありて。煩悩。哀傷。食言。歡樂の四の郷へ
 赴んと容易切るべし。があんとさひ。これ今うら化現して。あぬ
 とやうと久しうら。さうとせれま。夢想兵衛ハ一由も出せ。まあ
 あひ。とちりり。瘻痺さしてまあがれば。又の二人の女の童か。そのあえ
 せと送り出せ。切戸をひらき。さう見。愛忠兵衛ハ忙然とさう。

夢見るに似て木の間に生じ水もひかくと二三町あり。かゝるをげえん
めと。今やあつらひ草の庵いままであつらひ草の庵消かかく跡も
なつて。かくもあつらひ草の庵いままであつらひ草の庵消かかく跡も
領へ著まけり。

○總評

男女の非礼を野合といふ。その本は要するに、媒をとりて男女の節
を淫奔とす。その本は、貞女の二度を踏む。色を好で、待と志す。夫婦
別る。色を好で、乱る。りのハ妻妻は汚さる。礼節き、のハと、れのハ妻子よ
合入。待よ、いふ。悪琴を鼓がぶ。和樂して、且樂む。その樂、れを樂む
と。真の樂、と。いふ。いふ。色を好む。も可る。人。

夢想兵衛胡蝶物語卷之二終



